



▲森のいえ「ぼっち」の米作り。どろんこ遊びで代掻き!



▲焚き火でおやつ作り。この日は「野菜のバーベキュー」



▲「放課後のあそびば」では、遊具はスタッフと子ども達の手作りです。



巻頭特集

地域と子どもとお母さん みんなを繋ぐ子育ての輪

ふじみ子育てネットワーク

富士見町の子育て支援を担うNPO法人。
代表を務める松下さんに、ふじみ子育てネットワークの取り組みや
富士見町の子育て事情についてお聞きしました。

子育てひろば「AiAi」

放課後のあそびば

森のいえ「ぼっち」

親が幸せだと、子どもも幸せ。
子育て支援の先にあるのは
子ども達の笑顔です。



代表 松下妙子さん

親子の居場所 子育てひろば「AiAi」

「ふじみ子育てネットワーク」は、母親が中心となって運営している富士見町の子育て支援団体です。

現在子育てひろば「AiAi」、「野外保育「森のいえ「ぼっち」」、小学生向けの「放課後のあそびば」という3つの事業を柱に、約20名のスタッフが日々活動を行っています。

12年前に団体を立ち上げたのは、現代表の松下さんを含む10人ほどのお母さんたちでした。「私は元々音楽教育に携わっていました。子育てに行き詰まり悩んでいた前代表に、富士見町に子育て広場を作ろうと声を掛けられたんです」と、当時を振り返る松下さん。始めは週1〜2回公民館を借りてスタートした子育て広場でしたが、予想以上にお母さん達がつめかけ、富士見町にも大きな需要がある事がわかりました。

町と協働で子育て支援を進めるべく2007年にNPO法人の認証を受けたふじみ子育てネットワークは、現在富士見町からの委託を受けて「AiAi」を運営しています。利用者は年間に約3000組。住んでいる地域に関わらず未就学児とその保護者が自由に利用することが出来るため、岡谷市や山梨県から通うお母さんもいるのだとか。

子育て広場は各地にあります。通常は親子で遊べる場所や遊具の提供が中心で、スタッフが利用者と共に過ごす所は多くありません。一方「AiAi」では、スタッフが常に広場で過ごし、お母さんたちと一



▼「AiAi」で遊ぶ子ども達



▲雪と絵の具で遊ぶ「放課後のあそびば」

緒に子どもを見守ります。スタッフは子ども達にとっても、まるでおばあちゃんのような存在。核家族化が進み、たった1人で子どもと向き合わなければならないお母さんが多い中、自分以外の大人が子どもを見ていてくれる「AiAi」という場所は、実家のような安心感があるようです。

ふじみ子育てネットワークでは、常に子どもの側に寄り添い、子どもの考えを尊重することを意識しています。そのため、大人の都合で子どもを叱責することはありません。「喧嘩をしても、大人が無理矢理謝らせておしまいにはしません。今の子は相手に気持ちを伝えるという経験が不足しているのです。まずは思っていることや感情を全部吐き出させます」と松下さん。子どもが生きていく上で必要な体験はさせてあげたいと、スタッフ全員が日々愛を持って子どもに接しています。

放課後のあそびば

子育てひろば「AiAi」の活動が軌道に乗り始めた頃、松下さん達の中に「3才までの支援で終わって良いのか?」という疑問が浮かびます。実際の子育てでは、子どもの成長に応じて、様々な悩みがつきまとうもの。そこで、未就学児だけでなく幅広い年齢の子ども達をサポートしようとして、2009年に「放課後のあそびば」という小学生向けの事業をスタートしました。「家と家の距離が離れていると、友達と遊ぶのにも親の送迎が必要になってしまふ。そうした地域性もあって、富士見町の小学生は放課後自分の足で遊びに行く事が減っているんです」と話す松下さん。

「子どもには思いっきり遊んでほしい」という考えの元、「放課後のあそびば」では月に2回ほど富士見町小学校と本郷小学校の隣接地を借り、小学生が放課後自由に遊べる場を提供しています。

森のいえ「ぼっち」

「野外保育」という形で預り保育を行っている「森のいえ「ぼっち」」。園舎を設けず、林や川、畑といった自然豊かな環境で2〜5才の幼児の保育を行っています。子どもは一人一人やりたい事も出来る事も違いますが、室内に用意された遊具では、そうした多様な子ども達の遊びを充実させるには限界があります。しかし自然の中には選択肢がいっぱい。冬場のソリ一つとっても、広い林の中から自分が滑れるコースを見つけ、滑り方を工夫したり、1回目より高い場所から滑ってみたりと、自分できえながら自由に遊ぶ事ができます。

松下さんは「幼児期に自発的に考え行動する事を覚えれば、それは子どもの根っこの部分に残り、成長しても失われることはない」と話します。実は、野外保育の先進県と言われている長野県。幼児期の遊びの経験が若者の引きこもりや不登校の一つの要因だと叫ばれる中、野外保育の歴史と経験をもち長野県は、こうした保育を認める「信州やまほいく認定制度」を施行し、全国から注目を集めています。

子どもの幸せのために

お母さんにとって、子育ては必ずしも楽しくキラキラしたものだけではありません。不安で押しつぶされたり、うまく行

かずに悩んだり、時には自分のストレスを子どもにもぶつけてしまう事も。そんな時に、自分の悩みを理解し手助けしてくれる仲間や先輩がいる事が、大きな励みになります。そして、お母さんが穏やかな気持ちでいると、それは自然と子どもに伝わり、子どもにとっての安心感に繋がります。

子育て支援はお母さんの支援と思われがちですが、ふじみ子育てネットワークの根底にあるのは、常に「子どもたちの幸せ」。お母さんを通じて子どもを支えたいという思いから、「その人に必要なだけの支援をすること」を心掛けています。前向きに子育てをしているお母さんには余計な世話は焼かず、子育てに苦しんでいるお母さんには、その苦しみを埋めるだけの手助けをする。そうすることで、たくさんのお母さんが笑顔になれると思います。

ふじみ子育てネットワークが取り組む「それぞれの親子に寄り添った、地域ぐるみの子育て」が、今日もたくさんのお母さんと子ども達を笑顔にしています。

ふじみ子育てネットワーク

富士見町乙事1230
富士見町民広場「研修センター」
TEL.0266-62-5505

